

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第23週 (6/3-6/9) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		23週	22週	21週	20週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	17
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	6/3-6/9	5/27-6/2	5/20-5/26	5/13-5/19	5/27-6/2
			23週	22週	21週	20週	22週
小児科	RSウイルス感染症		3 0.17	4 0.22	1 0.06	0 0.00	12 0.09
	咽頭結膜熱		10 0.56	25 1.39	15 0.83	8 0.47	92 0.68
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		44 2.44	66 3.67	51 2.83	61 3.59	531 3.93
	感染性胃腸炎		123 6.83	128 7.11	126 7.00	107 6.29	766 5.67
	水痘		4 0.22	6 0.33	8 0.44	5 0.29	69 0.51
	手足口病	○	39 2.17	28 1.56	6 0.33	2 0.12	137 1.01
	伝染性紅斑	○	19 1.06	9 0.50	22 1.22	16 0.94	102 0.76
	突発性発しん		11 0.61	14 0.78	11 0.61	5 0.29	70 0.52
	ヘルパンギーナ		3 0.17	0 0.00	0 0.00	1 0.06	29 0.21
	流行性耳下腺炎		0 0.00	5 0.28	2 0.11	4 0.24	26 0.19
	インフル		5 0.18	18 0.64	13 0.46	17 0.63	171 0.80
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		4 0.80	4 0.80	2 0.40	0 0.00	14 0.40
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	10 1.11

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	80歳代	病原体遺伝子の検出	劇症型溶血性	男性	30歳代	病原体の分離・同定
結核	女性	20歳代	病原体の分離・同定等	レンサ球菌感染症	男性	40歳代	血清抗体の検出
結核	女性	70歳代	病原体等の検出	後天性免疫不全症候群	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
アメーバ赤痢	男性	30歳代	病原体の検出	百日咳	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出
-	-	-	-	風しん	男性	-	-

* 第23週は、結核3件(84)、アメーバ赤痢1件(2)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(6)、後天性免疫不全症候群1件(3)、百日咳1件(48)、風しん1件(28)の報告があった。

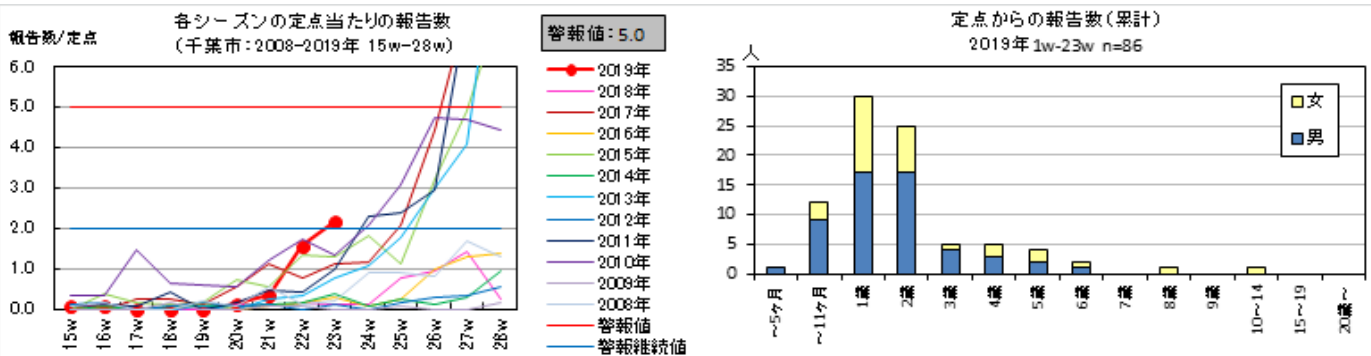
※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第23週のコメント

<手足口病> 前週より更に増加し2.17となった。過去10年の同時期と比べると最多。
<伝染性紅斑> 前週より増加し1.06となった。過去10年の同時期と比べるととても多い。

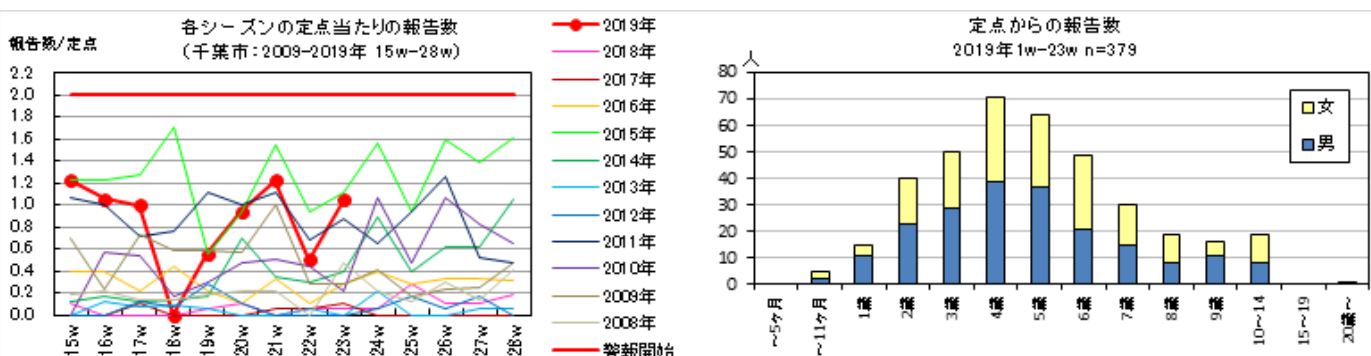
<手足口病>

全国レベルの第22週の定点当たりの報告数は1.95で、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、鹿児島県、宮崎県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は1.01で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第23週は前週より更に増加し2.17となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、稲毛区(10.3/定点)で流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回り最も多く、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第23週までの累積報告数は86件で、性別では男性が62.8%(54名)、女性が37.2%(32名)となっており、年齢階級別では1歳(34.9%:30名)、2歳(29.1%:25名)、6-11か月(14.0%:12名)の順で多くなっています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第22週の定点当たりの報告数は0.70で、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、佐賀県、長野県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.76で、ほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第23週は前週より増加し1.06となり、過去10年の同時期と比べるととても多くなっています。区別の発生状況は、花見川区(2.5/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最も多く、1歳~3歳、5歳及び8歳で発生報告がありました。その他、中央区で流行発生警報開始基準値と並んでいます。2019年第1週から第23週までの累積報告数は379件で、性別では男性が53.8%(204名)、女性が46.2%(175名)となっており、年齢階級別では4歳(18.7%:71名)、5歳(16.9%:64名)、3歳(13.2%:50名)の順で多くなっています。



<風しん>

全国レベルの第22週の発生届累積数は1658件で、昨年の同時期の50倍近くとなっています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県の順で多く報告されており、関東地方で多くなっています。千葉市では第23週に1件の発生届があり、2019年の発生届累積数は28件となりました。性別では男性が75.0%(21名)、女性が25.0%(7名)となっており、年齢階級別では30歳代(32.1%:9名)、40歳代(28.6%:8名)、50歳代(14.3%:4名)の順で多く、30歳代~40歳代の男性が中心となっています。ワクチン接種歴では、無し又は不明が9割近くを占めています。

